



市立旭川病院シンボルマーク

ごあいさつ

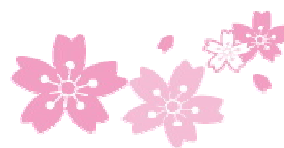
旭川市病院事業管理者
市立旭川病院 院長 青木 秀俊



各医療機関の皆様には、日頃より当院との医療連携にご配慮いただきまして誠にありがとうございます。

この度、当院の診療内容や行事の開催などさまざまな情報をお届けする「医療連携NEWS」を発行する運びとなりました。情報を通じて当院を身近に感じていただき、円滑な連携を進める一助となることを願っております。

近年、地域医療連携の重要性が言われておりますが、患者様が適切な時期に適切な診療を受けられることが大切であり、病院と診療所がそれぞれの役割を十分に果たすことができるよう地域の体制を整えて、より一層連携を深めることが必要と考えております。当院も、その体制を支える柱の一つとして信頼されるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。



開院80周年！！

市立旭川病院は、昭和5年4月に開設以来、80周年を迎えました。当時の場所は旭川市9条通7丁目で、その後3条通9丁目に移転し、現在地の金星町には昭和20年7月に落ち着きました。ちなみに、昭和5年生まれの有名人には、日本では評論家の竹村健一さん、作家の西村京太郎さん、外国では俳優のクリント・イーストウッドさんやショーン・コネリーさんなどがいます。

100周年、200周年と、未永く地域の医療に貢献して行けるようにガンバります！

糖尿病センターのご紹介

当院は平成17年10月から糖尿病センターを開設しています。増え続ける外来および入院の糖尿病患者様を総合的に診療できるようセンターを設立しました。当院は日本糖尿病学会教育認定施設(平成22年現在、糖尿病学会認定研修指導医2名)となっており、上川管内はもとより、遠くは稚内、網走などから多くの糖尿病患者様が外来通院(外来インスリン導入を含む)、教育入院、血糖コントロール入院、合併症評価および治療入院をされています。また、脂質異常症や高尿酸血症などの代謝疾患、甲状腺や副腎などの内分泌疾患の患者様も多数受診されています。

施行できる検査(糖尿病関連)

- 75gOGTT ○眼底検査(眼科医) ○腹部超音波検査 ○心臓超音波検査
- 頸動脈超音波検査 ○脈波ポリグラフ検査(ABI / PWV)
- MRI / MRA(頭部・頸部・下肢) ○神経伝導検査 ○R-R間隔変動検査

病棟

(4階西病棟が糖尿病センターとなっております)

入院目的は以下の通りです。なかでも1週間の糖尿病教育入院は好評で、患者様の予後の改善に効果の大きい内容となっております。

- インスリン導入(外来導入も可能です)
- 糖尿病教育入院:1週間コース
主に初めて糖尿病と診断された方のための教育・指導を目的としています。
- 糖尿病コントロール入院:2週間コース
血糖コントロールが不良な場合に、血糖改善を目的とし、治療方針を決定します。
- 糖尿病合併症評価・治療入院
合併症の病期を診断します。また、進行した合併症の治療、すなわち透析導入や網膜症の治療、脳梗塞や心筋梗塞および下肢閉塞性動脈硬化症といった動脈硬化症の治療を専門科に発信していきます。

外来

外来棟3階に糖尿病センター外来があります。また、廊下を挟んで向かい側に専用の採血室を配置しています。3名の医師(平成22年現在、糖尿病学会認定専門医2名)が診療にあたっています。受診日に管理栄養士による栄養指導、看護師(糖尿病認定看護師)による生活指導(sick dayを含む)・フットケア指導・インスリン自己注射指導・血糖自己測定指導を行っています。

糖尿病地域連携パス

当院は平成21年6月より糖尿病地域連携パスの運用を開始しました。かかりつけ医と専門病院の双方で糖尿病患者様の情報を共有し、よりよい医療を提供していく目的で開始しています。(左:患者用, 右:医療者用)

担当医師

- 武藤英二(副院長, 日本糖尿病学会専門医および研修指導医, 日本老年医学会認定医, 日本内科学会認定医)
- 宮本義博(診療部長, 日本糖尿病学会専門医および研修指導医, 日本内科学会認定医)
- 外川征史(医長, 日本内科学会認定医, 日本消化器内視鏡学会専門医)

糖尿病センターのこれから

糖尿病センターの目的は、耐糖能異常(IFG / IGT)、糖尿病のいずれのステージでも正しい治療が受けられること、道北のセンターとして、どこの地域とも連携をとりながら、いつでも当センターに来ることができることです。諸先生におかれましては、当院との連携にご理解をいただき、教育入院や悪化時の精査など是非当センターをご利用いただければ幸いです。



左から外川医師, 武藤医師, 宮本医師

地域医療連携室のご利用について ～ 受診予約の申込み ～

地域医療連携室では、地域の医療機関・施設などの先生方からご紹介いただく患者様の受診予約を受け付けています。

①
予約申込書に必要事項を記入してFAXにて送信願います。

予約申込書の診療情報を別紙に記入されている場合は、別紙も併せて送信してください。

②
受付確認票・受診予約票をFAXにて返信いたします。

10分程度で返信いたしますが、状況により時間を要する場合には電話でご連絡申し上げます。

③
受診予約票と診療情報提供書を患者様にお渡しください。

受診予約票を切り離し、診療情報提供書(原本)とともに患者様にお渡しください。

☞ 予約申込書が不足しましたらお送りしますのでご連絡ください。
なお、当院ホームページの地域医療連携室からもダウンロードできます。
(http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hospital/ach/05_region/05_03.htm)

☞ 受付は、月曜日～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:00です。
17:00以降にいただいたお申込みについては、翌日(休日の場合は休日明け)の対応となりますのでご了承ください。

医師紹介 私の履歴書

消化器病センター長 斉藤裕輔

1958年1月2日(おめでたいやつと言われます)の小樽で生まれ(武藤副院長、石井循環器部長と同郷)。高校は札幌南(金川泌尿器科部長、高田検査科部長と同級生)で1983年に旭川医大を卒業(佐藤精神科部長と仲良しでした)しました。故並木正義教授の主催する旭川医大第3内科に入局。1986年から1989年までは東京で故白壁彦夫先生(消化管の二重造影を開発されたカリスマ先生)のもと、消化管形態診断学を勉強させて頂きました。1989年に大学に復帰後、消化管の臨床、特に早期大腸癌の診断・治療を中心に研究を行ってきました。1998年には「表面型大腸腫瘍は欧米には存在しない」とされていた定説を覆すべく、米国、テキサス大学に1年間留学させて頂き、米国でも日本と同頻度に表面型大腸腫瘍が発見される事を証明しました。その後、第3内科の講師、助教授を経て、2004年10月から



市立旭川病院消化器内科で勤務させて頂き、現在に至っています。質の良い医療を短時間で遂行し、患者さんの待ち時間の削減と、自分たちの生活向上を目標に皆で一致団結して努力しています。趣味はカラオケ(意外と若い歌を歌います)、酒(だんだんと弱くなってきています)、ゴルフ(H.C.9.5でpseudo singleと言われています)で、特にゴルフは好きですが、最近、体力の限界を感じております。健康で仕事や趣味ができること、強力に支えて頂いている周囲のスタッフ、病院職員の皆様に日々感謝しながら、少しでも周りの皆様に元気を与えられるよう努めていきたいと強く思っております。

お知らせ

80周年を契機に、当院のシンボルマークを制定しました



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています(患者さんやご家族)。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

地域医療連携講演会のお知らせ

地域の医療機関との連携体制をより密接で円滑なものとするため、地域医療連携講演会を当院主催で開催します。多くみなさまのご参加をお待ちしております。

- 演題1「早期消化管癌に対する内視鏡治療」
市立旭川病院内科診療部長 斉藤裕輔
- 演題2「呼吸器疾患に対する胸腔鏡手術」
市立旭川病院外科診療部長 笹村裕二
- 演題3「放射線科が貢献できる病診連携」
市立旭川病院放射線科診療部長 花輪真

日時:平成22年5月24日(月)18時30分
場所:旭川グランドホテル3階「瑞雲の間」
参加費:お一人様1,000円

お問い合わせ:地域医療連携室

編集後記

4月の人事異動で市立病院に配属されてからおよそ1か月。これまで病院には公私ともにまるで縁のなかつた自分にとって、毎日のできごと全てが新鮮に写ります。1日も早く仕事を覚えて病院に、そして地域の医療に少しでも貢献できるように頑張ります!

市立旭川病院 地域医療連携室

〒070-8610
旭川市金星町1丁目1番65号
TEL(0166)24-3181(内線5370)
FAX(0166)26-0008
E-mail: h_iji@city.asahikawa.hokkaido.jp